

われら仲間 サロンの間

目指すは日本一!



今回は十市の女子編引チーム「JA十市ハチキン」を紹介いたします。

今年で結成九年目を迎える「JA十市ハチキン」はキャプテンの二居考子さんを中心に平均年齢四十四歳の十人で構成。週に二回、十市農協園芸出荷場で練習をしています。

このチームは全日本編引選手権高知県大会七連勝、全国大会では一九八九年にベスト八に、JA共済全国編引大会では二回ベスト三に入るなど数々の輝かしい成績を持っています。



今や奥下アンバ、ワンというその強さの秘密は、何といってもハードな練習内容。二人で百三十五のタイヤを足

このコーナーでは、同じ趣味を持った方たちの楽しい活動風景を紹介しています。「私たちのサークルを取材してほしい」と思われる皆さん、ぜひご応募ください。

西川美穂 (大埔)
田中保江 (前浜)
弘末祐一 (立田)
大川登恵子 (左右山)
児島岳宏 (才谷)

市民サロン

このページは市民の皆さんが作るページです。短歌、俳句、川柳などの文芸作品やどんなことでも結構ですので皆さんのご意見をお気軽にお寄せください。締め切りは毎月10日です。あて先は南国市企画課市民サロン係(〒733南国市大埔甲2301)です。

オルゴール館にて 森沢良博(東崎)



市民の方から、海岸に対する思いを綴った投稿をいただきました。今回はその手紙を紹介いたします。

写真は本村の浜から西の海岸、浦戸大橋を望む写真ですが、高いコンクリートの防波堤と海岸堤ににさまれた人影もない荒涼とした風景です。昔は白砂青松のちりひとつない浜で、大勢の人の生活の場として親しまれてきました。地引網が行われ、人と自然が溶け合う浜の風景が見られましたが昔の思い出です。

昭和五十年代からの海岸堤の設置により漁場をなくし、長い地引網の歴史に幕を閉じたこのころは同時に、浜と住人のつながりをも断ち切ることにになりました。

今、浜はちりだらけで出る人もなく、住人にも忘れられ



なぎさの今昔

した。防波堤、海岸堤など大事な工事で異論を言う気はありませんが、人為に今日をあらしめたことと否定できません。

今「なぎさリフレッシュ事業」を行っていますが、昔の浜を知っている私は少し抵抗も感じます。できあがりにはなごたけ自然に近い浜にしたいと思っています。

南国俳壇

めがね状く大列島のもどり寒
春尺を引つ保っている花菖
定刻になれば数りだす桜かな
塗りたての畔のはしから田植かな
ぐれを釣る岩魚殊に風光る
にこり難あがらぬ溝となりしかな
身の内に破船の如きものがある
どくだみを活けし日本村村に好き
長束のケラニヤ中花熱砂路む

里改田 福井英子
里改田 福井博子
里改田 岡田寿子
田村 久保仁子
前浜 竹島いはほ
浜改田 浜田東風
東崎 森本青三郎
稲生 前田昭子
大埔 川田玉恵

南国俳壇

無理など息子のデンワに元氣出る
元紀人何の縁か五十年
豊山道知った同志が挨拶し

田村 佐竹花美
田村 川口岩春
十市 八松久幸

南国歌壇

贈るものえらぶ飲びなきまに
カーネーションの白ひとつ買う
冬を越せサボテンの棘しろくして
過去の北枝はなべて愛しき
行き先も定めず夫意の舟に出て
喧なき雪を嘗めて帰れり
新緑のもゆるる空に煙機
薫風孕みて第土と化しぬ
都忘れ去年の母の日期はりて
今年も母の日忘れじと笑く
野を埋めるみどりの生命人も又
悲喜こもごもの道生き技きて

久礼田 澤村 良
立田 島田美津子
西山 岩貞健一郎
久枝 徳久昌男
立田 北村幸江
浜改田 楠瀬富士子

これはなんでしょう



親子クイズ 254

答えについての思い出などもお待ちしています。

【しめきり】 6月10日(月)

【あて先】 〒783 南国市 大埔甲二二〇一 南国市企画課 親子クイズ係

【賞品】 正解者の中から抽選で5人に図書券を進呈

◎第40回親子クイズの答えは、
たけのこでした。

第40回当選者発表(敬称略)
(応募総数32通)

お便りの中から皆さんの思い出の一部をご紹介します。

◆お父さんが子どものころ住んでいた家は、山で、家の前がたけやぶになっていました。しかし、十年近く県外に出ていて、帰って来てみると、何と、部屋の真ん中に畳をつきやぶってたけのこが出ていたと聞かされました。

◆たけのこを掘りに行ったとき、たけのこがなくてキョロキョロしている途中に、つまずいてかやりました。そして手にきり傷が……。足元にはたけのこの先が五センチほど出ていました。やれやれ……

◆初めて買って来たとき、アク抜きは知らない、下ゆでもしないで、すっごくまずくてがっかりしました。今はおまかせください、です。

◆たけのこといえば、小さなころ白木谷へ両親に連れられてたけのこ掘りに行ったことを思い出しました。今度は私が連れていく番ですね。

◆私が小さいころ妹が、たけのこせんべい、ずんとのびた、早く大きな竹になれ……と歌っていたのをたけのこの季節になると思い出して、父、母とよくこの話をします。私もまた、子どもにこれを教えて、今、子どもとよく歌います。